

令和元年度

事業所名： グループホーム ことぶき

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901019		
法人名	社会福祉法人 川崎寿松会		
事業所名	グループホーム ことぶき		
所在地	〒029-0202 岩手県一関市川崎町薄衣字久伝 26番地		
自己評価作成日	令和元年11月15日	評価結果市町村受理日	令和2年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームことぶきは、立地環境に恵まれスーパーや道の駅に歩いてすぐの所にあります。また、併設の特別養護老人ホームやデイサービスセンターが同敷地内にあり、地域の方々や顔なじみの方々との交流を持つ機会が多くあります。
平成29年に全床をフローリングにリフォームし、シルバーカーを使う利用者様も広々と移動することができます。
水分補給を色々な種類で細目に提供し、一日1500～1600ccを摂れるようにしています。熱中症や脱水予防、便秘対策等の一助になっています。
また、入浴リフトを導入しており、足の不自由な方でも浴槽に入ることができます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0370901019-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、近隣に、公共機関、医療機関、スーパー等がある利便性の良い場所に立地し、法人の基本理念「人間尊重」に沿い、隣接する同一法人の特別養護老人ホームやデイサービスセンターと連携した介護の提供体制を整えて、利用者家族も安心感を持っている。地域の夏祭りや文化祭への参加、事業所主催事業への近隣住民の招待など、地域の人達と交流を持つ機会が多くあり、防災訓練には、地域の方々も参加協力し、入居者の避難見守りを行うなど、地域との緊密な連携が図られている。建物は吹抜の天井が高い明るい雰囲気、火災報知機やスプリンクラーなど、防災設備も整っている。運営法人は、職員の資格取得、資質向上を積極的に支援しており、職員は、事業所のモットーに基づき、利用者が心穏やかに安心と尊厳のある時間を過ごしていただける介護サービスの実践に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年12月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム ことぶき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念と、グループホーム独自のモットーを廊下、事務室の目のつくところに掲げて、常に意識している。 日々の業務中でも、話し合いを持ち理念・モットーに立ち返るよう努力している。	法人の理念と事業所のモットーを事務室等に掲示するとともに、職員間の業務申し送りの際にも確認し合い、理念等の意識付けや共有を図り、日常のケアに反映し、実践に繋げるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りに施設の庭を提供し、利用者も一緒に参加している。川崎町の文化祭に作品を出展し、見学に行った際は地域の方々と交流している。 運営推進会議には自治会長・老人クラブ会長・民生委員等に出席していただき、会食等で利用者と交流して頂いている。	夏祭り等の地域の行事に事業所の敷地を提供したり、地域の文化祭には利用者も作品を出品するなど、地域住民との交流を深め、また、地元のボランティアや中学生の職場体験受け入れなど、地域との交流の機会が多い。更に地元公民館などで、事業所自ら、福祉関係の情報提供や指導も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	川崎町の文化祭に作品を出展。 川崎地域支援会議に出席し、情報提供。 入所申し込みにいらした方に、現状を聞きアドバイスや認知症についての情報提供をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	総合防災訓練には、地域の方々からの協力をいただき、運営推進会議でご意見をいただき、改善につなげた。	運営推進会議は、自治会役員、民生委員、市担当課職員の他、全家族にも案内し、4、5家族程度が参加している。会議では、事業所活動や地域行事に関する情報交換等が行われ、防災訓練に関する意見等を見直し改善に役立てている。 会議終了後は昼食会を行い、交流を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議に出席して頂き、状況報告をしている。また、川崎地域支援会議に出席し、包括支援センター・社会福祉協議会・民生委員等とも情報交換をしている。	市担当者とは、運営推進会議での状況報告等により、施設の現況を把握してもらい、連携を図っている。また、2か月毎に開催される川崎地域支援会議には主に管理者が出席し、情報交換等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の組織の中に「身体拘束禁止委員会」があり、各事業所からメンバーを選出していることから当ホームの職員も毎年入っている。『身体拘束廃止に関する指針』を作成して職員全員に配布し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事故防止、防犯の観点から夜間のみ玄関は施錠しているが、日中外に出たがる利用者にはなるべく対応できるようにしている。	法人組織の中に「身体拘束禁止委員会」があり、本事業所の職員も含め、各事業所からメンバーを選出している。「身体拘束廃止に関する指針」に基づき、職員研修を行い、スピーチロックを減らす取り組みや話し合いを行っている。日中、外へ出たがる利用者があるが、見守りと気分転換などで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修として虐待防止について取り上げ勉強し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度の利用の実例はなかったが、管理者は制度について各種研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、改定時には口頭・文書にて説明を行い理解・納得を頂いている。不明な点や不安なことはいつでもお答えするよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等に意見を聞くようにしている。また利用者の「○○が食べたい。」と言う意見を反映し、買い物に出かけたり、干し柿作り等を行っている。	運営推進会議や面会時に、家族から、施設への要望や意見を聴き取っている。年2回の昼食会その他、必要に応じて家族との個別面談も行い、家族の意見等を聴く機会を持つよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体の職員会議、管理者・主任者会議で意見交換をしている。また年度末の職員全体から意見を施設長や管理者は目を通し、改善や実現できるものはすぐにとりかかっている。事業所内の会議においても随時意見交換を行っている。	毎月の職員会議で、業務改善に向けた話し合いを行っている他、毎年3月には、業務や運営に関する職員の意見を聴取し、改善に向けた取り組みを行っている。毎日の申し送りでは、利用者の状況や職員が気がついたことを情報共有し、意見交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しており、自己評価を元に直属上司が評価をしている。評価のポイントなどを研修した上でやっている。 労働時間については、管理者がタイムカード等で労働時間を把握し、時間外労働を極力しないよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の組織の中に「OJT推進委員会」があり、各事業所・各職種毎に育成システムが確立されている。オリエンテーションから、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月と段階を経て育成して、その都度、自己評価、面談を通して不安や疑問を取り除きながら、働きながら実践を通してトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会に属していて、ブロックの定例会や全体の研修会に参加している。 時々、電話で情報交換をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学にいらした場合は見学時から、また入所前の面接調査でも本人の不安なこと、要望等を聞き取り、不安を取り除くようにしている。各関係者からの情報もなるべく多く取り、不安解消につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みにいらした場合は申込時から、家族が直面している困りごとに、今できる対応や各種サービス・制度の活用、受診の仕方等をアドバイスしている。 入所時には、その時点での不安や要望を聞き、不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接調査や各関係者からの情報をもとに、初回の施設サービス計画書を作成し支援を行うが、利用者の様子を見ながら臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる範囲での仕事を用意し、一緒におこなうことで「私も役に立っている」という気持ちを、日々の生活の中で持ち続けていただくようにしている。職員はその都度、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会だけでなく、定期受診は家族にお願いし、昼食を家族と食べてくなど一緒に過ごす機会を持つようにしている。運営推進会議には、毎回案内文書を郵送している。本人の希望時や、状況に応じて電話をかけたたり面会を依頼する場合もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問のドライブや、同敷地内にある施設を訪問し、友人・知人と面会をして交流をしている。また、昔から利用している美容院に出かける利用者もいる。	隣接の施設を訪問し、知人などと面会、交流している。ふるさと訪問ドライブ、通院、美容院に出かけることにより、知人との交流や馴染の関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の度合いや、聴力の関係でトラブルや行き違いが多々見られるが、常に職員が側にいて見守り、必要があればすぐにフォローできるようにしている。様子を見ながら職員が仲介して、関係が改善されるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の場合は、家族や各関係者と連絡を取り情報提供を行っている。終了後に、介護保険手続きを代行する場合もある。隣接する特養に入所した場合は様子を伺う等している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床や就寝時間、個人の習慣等に合わせて支援している。居室担当を決め、本人の希望する買い物に対応している。誕生日には本人が希望する食事を作りお祝いをしている。意思表示が難しい利用者には、ご家族の言葉や思いを反映できるよう努めている。	家族から、家庭での生活の様子などを聴き取り、日常のケアに反映している。業務日誌や介護記録で利用者の状況を把握し、情報を職員間で共有し、利用者一人一人に寄り添った対応を行うように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接調査で生活歴を把握し、全職員が把握して支援に当たっている。また、ご家族や他の面会者からの情報を得ることもあり、申し送りノートやミーティングで情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや申し送りノートで毎日確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し、なおかつ職員間で課題を話し合い、本人にとってベストとなるように作成している。	入居時の面接調査で家族の希望、利用者の意向を伺い、原案を複数の職員で検討したうえでケアプランを作成している。プランは、3～6か月毎にモニタリングを行い、家族の意向変化の有無等を確認し、居室担当を中心としたカンファレンスによりプランの評価、調整を行い、状況に応じ必要な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録は、記録用ソフトを使い入力し記録している。いつもと違うエピソードや表情なども個別に入力記録している。パソコンに入力されている記録は、介護計画書に反映されるものもある。その他、細かい事項は、申し送りノートに記録し、毎日確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方にいる利用者の、受診対応を行った。希望される方には、訪問理容を利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣町のショッピングモールへ買い物に行き、希望の物を購入することが楽しみとなっている。また、町の文化祭へ参加し、ボランティア団体からお茶会に招待され交流している。地域の盆踊り大会に参加し交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は、入所前からのかかりつけ医にご家族が受診同行して行っている。施設への往診を利用して利用する利用者もあり、職員が対応している。受診、往診共に、変化があったときには文書または口頭で状況報告をして、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医受診の際は家族が付添い、健康状態の変化等は文書を作成し、医師に伝えている。二つのクリニックの医師が施設を訪問し、診療を行っている。受診、訪問診療とも、医師から指示等があれば、事業所と家族で連絡し合い情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は利用していない。不安な時は職場内他事業所の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の訪問や、家族・医師・看護師と連絡を取り合い病状把握に努めている。 一関市医療と介護の連携マニュアルの中の「くらしのシート」「退院シート」を活用し情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ご家族に重度化した場合の意向を確認している。現在、看護師がいない職員体制で重度化対応は難しい。しかし、現に要介護5の方が複数名おり、介護職の負担が大きいのが現状。同法人の特養の入所申し込みをされている方もいる。	重度化した場合の対応に関する「重度化対応指針」を作成し、看取りは行わないことを入居時に家族に説明している。現状の職員体制では、看取りは困難で、重度化した場合は、特別養護老人ホームや看取りを行える施設への転出を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で定期的に、普通救命講習会を実施しており、グループホーム職員も参加している。毎月、避難訓練を実施している。緊急時対応マニュアルの確認を会議で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の総合防災訓練(夜間想定)では、地域の方々にも参加して頂き協力体制が築かれている。 水害想定避難訓練には、実際に車に乗って、避難所まで避難する訓練を行っている。 火災・地震想定避難訓練は、毎月行っている。	法人全体の総合防災訓練では、地域の方々6名が参加し、利用者の避難支援に協力していただいた。水害想定避難訓練も実施し、避難ルートの見直しを行った。火災の避難訓練は、夜間想定訓練も含め、単独で毎月実施している。備蓄は、地域住民の食料も含めて法人で行っている。	高い防災意識を持って災害対策に取り組んでいますが、施設の2か所の避難口はいずれも段差が大きく、避難に時間を要すると思われます。安全、迅速な避難ができるよう、対策の検討に取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が理解できる言葉でわかりやすく声かけをするように心がけているが、理解できない時や、聞こえにくい利用者にはつい大声で話していることがある。聞こえにくい利用者にはプライバシーにかかわる話をするときには場所を選んだり、筆談をするなど配慮している。	職員は、利用者の尊厳を大切にし、周囲の状況に気を配り、入浴、トイレ介助の際のプライバシーにも配慮した対応を心掛けている。聞こえにくい利用者には話をする時には筆談をするなど、利用者に寄り添い、敬意を持って対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいものや、入浴の順番、着るもの等、選べるものは本人に自己決定できるよう働きかけている。外出や動物とのふれあひもできる限り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務が優先されることもあるが、食事の時間や入浴するしない等、なるべく個人の希望に添えるよう支援している。しかしそうすることで、他の利用者からバッシングを受けてしまう利用者が出る時にはフォローしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スカーフやバンダナを髪や首に巻く習慣のある利用者には数種類揃えて楽しんで頂くなど、その人の個性が現れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔ながらの食べ物、行事に合わせた食事、誕生日の希望食等を職員が作り提供している。食後の食器洗いや食器拭きは毎日一緒に行っている。	職員が1週間分のメニューを考え調理しているが、朝食の一部はケータリングを利用し職員の負担軽減を図っている。職員も見守りしながら一緒に食事し、利用者は出来る範囲で、食後の後片付けを行っている。誕生日には本人の食べたい料理を準備するなど、食事を楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉類、魚類、野菜、酢の物等まんべんなく食べられるように職員が献立を作成している。特養の管理栄養士に年に2回献立を確認してもらいアドバイスをもらっている。カロリー制限がある利用者には、主治医から指示を仰いでいる。咀嚼・嚥下が困難な利用者には刻み食やミキサー食、トロミ食を提供している。 水分は1人1日1500～1600cc摂取できるように、様々な飲み物をこまめに提供している。 食事、水分ともに摂取量を確認し記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分の歯がある方は毎食後、歯磨きを実施。声かけ、見守りをしている。また、毎食後、洗面台にお茶を配り、お茶うがい、舌みがきを実施。自分でできない利用者は職員が口腔清拭を行っている。夕食後は、義歯洗浄剤に浸している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間(介助者は量も)をチェックして記録している。排泄パターンを把握して、事前に声かけやトイレ誘導を行い失敗を減らしている。	排泄チェック表により、職員が利用者のパターンを把握し、一人一人に合わせて声掛けしてトイレに誘導している。自立排泄を促し、状況に応じてオムツやポータブルトイレを使用するなど、生活の質を維持できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、個々のペースで排便がない方にはそれぞれに処方されている下剤で対応しコントロールしている。 食事で提供するヨーグルトや野菜・根菜類、水分摂取量などに気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助は毎日実施し、利用者は1日おきの入浴。本人の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。歩行困難な方でもリフトを使い浴槽に入ることができる。	入浴は、基本的に、1日おきに午後としているが、利用者の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。リフト浴があり、介護度が高い利用者も、職員2名による介助で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に休まれる方休まない方、昼寝をする方しない方を把握し、声かけをしている。体調や疲労度を観察し横になって休むよう声をかけることもある。午後はなるべく起きて体操等に参加して頂き、夜の安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に何を服用しているか確認し、職員は理解している。受診時、毎回、処方薬の確認をして変更があった場合は、ケース記録と申し送りノートに記入して確認している。個人に合わせて服薬介助をしている。 薬の変更があった場合、その後、必要に応じ医師に状況報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや干し方、食器洗い、食器拭きなどをしてもらうことで張り合いを持っている利用者もいる。能力に応じて用意している。はっとう作りや干し柿作り等、昔を思い出しながら皆で行っている。友人知人との面会を望む方にはできる範囲で対応。買物ドライブや、ふるさと訪問ドライブなども企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員体制により、その日の希望に沿っての外出とまではいかないがどうしても出たい利用者には気分が落ち着くまで散歩の対応をしている。職員の確保ができる日にはふるさと訪問や買い物などを計画している。利用者の希望を伝え、家族に対応してもらった事例もある。	外出を望む利用者には、職員が付添い、施設の周辺を散歩している。買物やドライブ等の外出は回数が限られるので、ご家族の協力をいただいて外出の機会を増やすよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様も了解のもとお金を所持している利用者も何名かはいる。その方々も含め、全員分の預かり金を施設で管理している。居室担当者が、買いたいものを頼まれ買ってることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話がかけられる。介助が必要な方には職員が仲介している。個人で携帯電話を持っている方もおり、同様に介助が必要な時は仲介している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の壁面には、町の文化祭に出展した歴代の共同作品を飾っている。また、日々の活動で制作したぬりえやちぎり絵等も飾っている。廊下には、行事等の写真を飾り、通りかかる利用者も足を止め見入っている。食堂の内扉には季節感を表す装飾を心がけている。	ホールは、吹抜けで天井が高く、広々としており、壁面には、地域の文化祭に出展した利用者のちぎり絵・ぬり絵の作品や行事の際の写真、季節ごとの飾りつけが行われ、和やかな雰囲気づくりがされている。利用者は、普段は食堂のテーブルに集まり、寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファで一人でくつろいだり、居眠りをしている利用者もいる。誰もいなくなった食堂で一人で過ごされている利用者もいる。廊下の所々には椅子を置いていつでも座れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具等持参して頂き、落 着くような空間作りに努めている。本人の希 望で位牌や遺影を居室に置いている方もい る。居室に家族写真や、家族からのプレゼ ントを飾って居心地よく過ごせるよう心 がけている。	居室は、車椅子利用者に配慮した部屋と 通常の部屋があり、ベッド、洗面台、エ アコンが備え付けられている。居室 内は、家族や旅行の際の写真などを 飾り、自宅の生活に近い雰囲気づく りをしたり、TVを持込んでいる利用 者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境 づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」 「わかること」を活かして、安全かつ できるだけ自立した生活が送れるよう に工夫している	居室入り口には本人の名前を表示し、 自分で名前を確認して出入りしてい る。わからない利用者には付き添 い介助している。共用のトイレや 風呂には、大きく「便所」「風呂場」 と表示し理解できる利用者は一人 で行くことができる。		